

第3回ジオパーク下仁田協議会学術部会次第（報告）

日 時 令和4年3月10日（木）午後6時00分～

場 所 下仁田町自然史館・ミーティングルーム

所 属	氏 名	出・欠	所 属	氏 名	出・欠
群馬県立自然史博物館	高 桑 祐 司	出	下仁田ジオパークの会	大河原順次郎	出
下仁田自然学校	中 井 均	出		里 見 立 夫	出
下仁田町歴史館	山 田 誠 司	出	下仁田町自然史館	中 村 由 克	出
中小坂鉄山研究会	原 田 喬	欠	下仁田町自然史館	赤 岡 明	出
群馬大学名誉教授	吉 川 和 男	出	下仁田町自然史館	関 谷 友 彦	出

1 開 会

2 報 告

（1）2021年度下仁田ジオパーク再認定審査結果について

資料1の通り報告し、下記の質問・提案が行われました。

鉱物資源の販売について、貴重な鉱物や石をただ売るのは問題かとはおもうが、石にラベルをつけた教材としての販売については、認めるなど検討してはどうか？ジオパークの目標は地学に興味を持ってもらうこともあると思うその中でホンモノに触れるということとは大事になると思う。ヨーロッパが決めたルールなので日本とは条件が異なり持続性が保てるのではないか？下仁田独自の見解を示していくことも検討してみてもは？

3 協議事項

（1）下仁田ジオパークのアクションプラン（2022～2026）（案）について

前回の学術部会までに検討したアクションプランに再審査の結果を踏まえた追加の計画を記述したもの（網掛け）を説明し、意見交換が行われ下記のことを盛り込むことで学術活動の計画案とすることになりました

- ・保全計画の中に地質資源の販売に関する事項を含めて計画を作っていくこと
- ・資源の調査研究支援に生態系分野・無形文化財分野の研究を取り入れること

とを計画に盛り込む。

(2) 下仁田ジオパーク総合パンフレットの補足解説書(案)について

下記の修正提案が出されました。

全体の話

- ストーリーが言葉だけなのでイメージしづらい。
⇒リニューアルする際に、昔の古地図などを入れようという話があったが、教科書的になると一般の人には理解しづらいという意見があり、パンフは写真を中心に下仁田に来てもらうことを優先にすることにした。
(イメージ図などは看板や展示施設で)
- 写真が暗いものがあるので調整。

ストーリー1 蒔田不動の滝について

- 御影石は石材の名前および、産地地名であり、産地の人のことを考えると下仁田ネギというブランドを下仁田産でこだわる下仁田ジオパークとして「みかげ」という表記はやめた方がよいのでは？
⇒花崗岩を分かり易くするために一般化した言葉として「花こう岩類(みかげいし)」と表記する。

白石の石灰岩の表記について

- 「海洋でできた良質の石灰岩」は海洋海の表面を指すイメージにならないか？
⇒ストーリー検討会で「太平洋でできた石灰岩」を海洋に変えた。
⇒この石灰岩は化石が少ないことからサンゴ礁でできたとはいえないかもしれない。ただ一般論ではサンゴ礁としていいと思う。
⇒この文章は根なし山が太平洋側にのし上げたという表現からつながるものなので、今回は海洋のままでどうか？

ストーリー3 下仁田道について

- 下仁田道は渋沢栄一も通った志賀越え(香坂峠)が必要ではないか？道の線の太さを追分に向かうルートを太くし、余地峠、内山峠、香坂峠、和見峠はすべて同じ色にしたほうがよい。

馬山丘陵について

- 地元の話では下位段丘からの土器や石器が報告されているので、馬山丘陵には遺跡が多くあり、上位段丘には戦国時代には山城が築かれた。と表記するのがいいではないか

⇒上位段丘の農免沿いにはたくさんの縄文時代の遺跡が見つかっており、農免道を遺跡街道としてみどころにした経緯があった。遺跡の分布密度も下位に比べたら高くないと思う。

⇒上位段丘には、遺跡が多くありというよりは、遺跡が多く確認されていると表記したほうがよい。

⇒各専門部会で内容を吟味し、令和3年度事業として解説書を発

行します。

(3) 下仁田ジオパークの保全方針について (資料)

資料4について保全の現状を説明し、公開可能なサイトや形態別を表記したサイトリストを更新し、それを解説する保全計画を作っていくことを決めました。サイトリストの中身については次回以降検討します。

4 次回の部会開催について

2022年4月末～5月上旬を予定。

5 閉会